

ガウスの記念碑について

- 1 『近世数学史談』（高木貞治）にはこの記念碑については書かれていないと思います。
会場では、「正 17 角形のセンセーション」について書かれていることを申し上げました。
- 2 いくつかを当たってみました。が、「正 17 角形の台座」であるという本はすぐには見当たりませんでした。勘違いかもしれません。いくつかの本にはそのように書かれていた記憶があります。
- 3 『ガウスの生涯』（ダニングトン、東京図書、1976 年第 2 刷）には次のような記述があります。

(p.24) この 17 辺の正多角形で自分の墓を飾ってもらいたい、とガウスはボヤイに語っている。このことは実現しなかったが、彼に捧げられたブラウンシュヴァイクの記念碑の台座の側面には相当する図形が刻まれている。

(p.337) モノクロの写真の説明に
ブラウンシュヴァイクのガウス記念像
シャッパー作 (1880 年)
とあります。

(p.349) p.24 の脚注です。
記念碑の台座のうしろに 17 の光芒をもつ星が刻まれている。というのは、石工のホワルトが 17 辺の多辺形はだれもが円と見ちがえるだろう、と言ったからである。
これはアルキメデスの墓の 1 つを思い起こさせる。それは円柱に球を内接させるもので、キケロがシラクサ島に滞在中、瓦礫の下に埋もれたその墓を発見したと書き残している。(以下略)
- 4 『ガウスのアイデア』（ハッル、1989 年）にほとんど同じ内容の記述があります。(p.32)
『ガウスの生涯』（ダニングトン、1976 年）：1955 年版の翻訳
『ガウスのアイデア』（ハッル、1989 年）：1965 年版の翻訳
- 5 「正 17 角形」というのはこれらを誤用したのではないかと思います。(ど
の本だったかの今は不明) 星型の点ではなく、星型 17 角形でした。